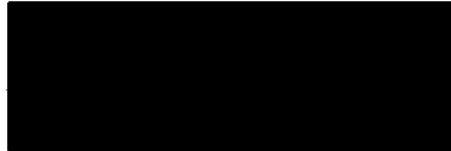


様式第1号（第3条関係）

令和5年6月1日

舞鶴市長様

住 所
請求者 氏 名
電話番号



[法人その他の団体にあつては、事務所又は事業
所の所在地並びに名称及び代表者の氏名
連絡先（法人その他の団体の担当者）]

氏 名
電話番号

行政文書開示請求書

舞鶴市情報公開条例第4条第1項の規定により、次のとおり行政文書の開示を請求します。

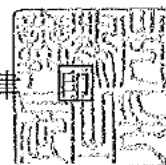
請求に係る行政文書の件名又は内容	令和5年2月から4月までの市長定例記者会見議事録（起案書面または供覧書面含む）。
開示の方法	<input type="checkbox"/> 閲覧 <input type="checkbox"/> 視聴 <input checked="" type="checkbox"/> 写しの交付（送付希望の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無）
請求に係る行政文書の開示が公益上必要がある理由	市政全般を確認するため。
※ 受付年月日	令和5年6月1日
※ 担当部課等	市長公室 広報広聴課 電話番号 0773-66-1041 （内線 1371）
※ 備考	

(注) 「開示の方法」の欄は、該当する□にレ印を記入してください。

※印の欄は、記入しないでください。

様

舞鶴市長 鴨田 秋津



行政文書部分開示決定通知書

令和5年6月1日付けの行政文書の開示請求について、舞鶴市情報公開条例第9条第1項の規定により、次のとおり不開示情報に係る部分を除いて開示することと決定したので通知します。

行政文書の件名	会議等報告書 (2月市長定例会見について) 会議等報告書 (3月市長定例会見について) 会議等報告書 (4月市長定例会見について)	
開示の日時及び場所	日時	令和5年6月23日 (午前・午後10時00分)
	場所	舞鶴市役所
開示の方法	写しの交付	
開示しない部分並びに開示しないこととする根拠規定及び当該規定を適用する理由	(開示しない部分) 文書内の「氏名」「役職」「職業」「住所」「国籍」及び「年齢」に関する部分 (開示しないこととする根拠規定及び当該規定を適用する理由) 舞鶴市情報公開条例第5条第1号に該当し、個人に関する情報であるため。	
舞鶴市情報公開条例第10条後段の規定に該当する場合の行政文書の開示をすることができる期日	年 月 日 ただし、行政文書の開示を希望する場合は、同日以後新たに開示請求が必要となります。	
担当部課等	市長公室広報広聴課 電話番号 0773-66-1041 (内線 1317)	
備考		
注意	1 指定された開示の日時の都合が悪いときは、あらかじめ担当部課へ連絡してください。 2 開示を受ける際には、この通知書を提示してください。	

(教示)

- 1 この決定に不服がある場合には、この決定があったことを知った日の翌日から起算して3か月以内に、舞鶴市長に対して審査請求をすることができます(なお、

会 議 等 報 告 書

部 長	次 長	課長等	係長等	係 員	報 告 者
					市長公室 広報広聴課 氏名 大槻 成雄
件 名		2月 市長定例会見について			
日 時		令和5年2月20日（月）15：30 ～ 16：15			
会議等場所		本庁本館 3階 301会議室			
出席者		鴨田市長、堤副市長 川端公室長、有吉政策推進部長、桑垣総務部長 財政課：芦田課長			

2月市長定例会見を20日（月）15時30分から開催しました。
 内容について下記のとおり報告します。

記

【出席報道関係者】

産経新聞社（ ）、京都新聞社（ ）、毎日新聞（ ）、
 朝日新聞社（ ）、読売新聞社（ ）、NHK（ ）、
 朝日放送（ ）、毎日放送（ ）、読売テレビ（ ）、
 関西テレビ（ ）、FMまいづる（ ）

1. 市長就任にあたって

2月の定例記者会見を開催させていただきましたところ、ご多忙中にもかかわらず、ご出席いただきありがとうございます。

さて、本日は市長就任後初の会見ですので、まずは就任して、今後に向けた私の思いと、令和5年度予算についてご説明したいと思えます。

その後、皆さんからのご質問をお受けしたいと思えます。

まず、私の思いでございますが、市民のみなさま誰もが、希望を持ってこのまちに住み続けていただきたい、そんな舞鶴市にしたい、これが私の強い思いです。近年の財政の悪化、近隣自治体に比べても著しい人口減少、これまで市を支えていた基盤産業の衰退、そして地域医療の後退など、今の私たちを取り巻く環境は危機的な課題が山積しています。

私はそんな「ふるさと舞鶴」の状況を憂い、このまちには真のリーダーが必要であると決意し、市長選挙に出馬し、このたび第23代舞鶴市長に当選させていただきました。次世代への積極的な投資に努め、安心できる子育て環境や教育を充実させる。そのことで元気ある若い世代が高齢者世代をしっかり支え、さらには地域経済を力強く回復させる、まさに循環型の社会を再構築することが今求められています。さまざまな情報を積極的に開示し、市民のみなさまと対話を重ねながら安心して住み続けていただく「未来に希望がもてるまち・舞鶴の再生」を進めていきます。どうか温かいご支援をお願い申し上げます。

さて、それでは続いて令和5年度予算及び令和4年度3月補正予算案について説明いたします。事業内容につきましては、すでに財政課から説明を行っておりますので、私からは特徴についてご説明いたします。

令和5年度予算編成にあたりましては、市長就任間もないこともあり、経常的・継続的事業を中心とした骨格型予算としております。ただし、骨格型を基本としながらも、令和5年度には市制施行80周年を迎える中、「未来に希望がもてるまちづくり」へ向かうため必要な経費を計上しております。

具体的には、新規の政策的事業を抑制しつつも、市民生活に密着した重要な事項や安全

【裏面あり】

対策など早急な対応が求められる事業などについては、盛り込んだ予算としております。また物価高騰対策や防災・減災対策などにつきましては、令和4年度3月補正予算と連動し、迅速で切れ目ない施策の推進を行います。

この結果、令和5年度当初予算が一般会計では前年度比約8.4億円増となる367.9億円、特別会計及び企業会計を合わせました全会計では、約1億円減となる660.1億円を計上しております。また一般会計では、新型コロナウイルス感染症や物価高騰対策及び国の補正予算を受け防災減災などに取り組む8.4億円の補正予算を合わせて編成しております。

補正予算としては、この他、国民健康保険事業会計及び下水道事業会計におきまして事業費の確定等に伴う補正を行うものでございます。

なお、政策的な経費につきましては、6月補正で肉付けを行うこととしております。以上が予算の概要であります。

産経) 最初にちょっと何点か伺いたいんですが幹事として、今市長としてのなった感想としてはいただきましたので、実務的なことで申し訳ないんですが。まず、今副市長が1人退任して1人になっていますが、今後人事についてどういうことを考えるか、それと通例的に農業とかそういう市に関係ある分野で、府からそういう方が派遣されてきたというような状況があるんですが、その辺の考え方を教えていただきたい。それともう1つは今回改革を掲げて11の公約を打ったんですが、その中で予算で今回構成する中で、1週間である程度意思を伝えたいと思うんですが、どのようなことを重視して骨格にしたかという意思、何を伝えたいかということをお願いしたい。それともう1点は最後、今進んでいる7次総合計画の後期、これについてどうするかというのを今代表してお聞きしたいんですが、お願いできますか。

⇒まず人事につきましては、もちろんこれから新年度に向けて検討していく最中でございます。まだ発表できる段階ではございませんので、具体的な発言は控えたいと思いますが、もちろん水面下でお声を掛けさせていただいているような状況でございます。予算については、今も申し上げましたとおり就任2週間ですから、これも以前から公約で掲げますように、とにかく子どもや子育てに使っていく予算を確保していきたいという思いはしっかりと伝えていきますけれども、それについても今後さまざまな行財政改革を行っていく必要がありますので、今後組織も含めて検討してまいりたいというふうに思います。最後に総合計画につきましても、後期実行計画を策定したところではありますけれども、当然、首長が替わったということですから、これについても改めて総合計画を見直す中でできるだけ早期にお示しをしてみたいというふうに思います。以上です(市長)

産経) ありがとうございます。

朝日) 今、骨格予算に新市長の方から盛り込んでいただいたものについては、とりあえずないというふうにおっしゃいましたが、逆にこれはちょっと待ってくださいよという止めていただいたものはありますか。

⇒まず今進もうとしている例えば赤れんが等については、本日就任したばかりですし、担当課と今の状況なんかを含めながら、まずは一旦今回の当初予算では止めさせていただいた、これが大きなところですね(市長)

産経) 早速公約の条例、給与の削減を盛り込みましたけれど、まずそういうところから革新的な意思を示したいというお考えなんですね。

⇒そうですね、当然のことながら公約に掲げて当選をさせていただいてますので、まずは最初に、これは予算ではありませんからね、条例を改正していくことですから早急にその意思を示していきたいということでございます(市長)

産経) それと今後11の公約を挙げていたんですが、公約というのは実現するために財源が必要で、一般財源でなく、市が各部署から財源を引っ張ってくるという状況になるというのをしているんですが、その辺のところでは財源的な、先ほど非常に厳しい財政問題があるとおっしゃいましたが、改善をまだ2週間ですからお答えにくいかもしれませんが、どういう点から手をつけたいと考えていらっしゃるんですか。

【裏面あり】

⇒これも以前もお話ししたかもしれませんが、まず今やっている状況ですね、それぞれの分野、それぞれの部課署について事業の検討、費用対効果も含めてまずは検討していきたいというふうに思っていますし、また役所内の行政改革についても検討してまいりたいというふうに思っています。掲げた公約の中でももちろん財源が必要なものと知恵を絞っていくものとそれぞれありますから、この辺りについてもこれからしっかりと発表できるようにしてまいりたいと思っています。ただ当然約束した公約ですから必ず実現をしてまいりたいというふうに思っています（市長）

産経) やっている状況を検討していくということなんですけど、もちろん市長自身のヒアリングというのもあるんですけど、内部的に医療問題の検討委員会を作るとか当選の直後にお聞きしたんですけど、その辺のプロジェクトチームの発足みたいなものは考えていらっしゃいますか。

⇒それについても先ほどの赤れんがも1つ例には出しましたけれども、今現状どこまでできていて何が課題かというものについては、医療も含めて、まずは庁舎内での整理をしていきたいと思っていますので、具体的にその検討委員会を立ち上げるのはいつであるとかそういったことについては、言及を控えたいというふうに思います（市長）

産経) 分かりました。

京・■) 今回の当初予算なんですけど、鴨田さんとしたら自分の色をどれだけ出せたかというのをパーセンテージで表すとどれぐらい？

⇒パーセンテージ、難しい質問ですね。パーセンテージでいうとどうかなあ、30パーセントぐらいですかね（市長）

京・■) 30パーセント、それは子育ての部分で重点的に。

⇒そうですね、従来からの認定こども園の移行であったりとか、ギガスクールっていうのをさらに推し進めていくことは、もちろん元々賛同している部分ですし、大きな公約でいうところでは学校給食の無償化であったり、医療費の無償化っていうのを掲げておりますから、30パーセント、難しいですね。まあ30パーセントかな（市長）

朝日) その辺ができれば、おいおい6月で肉付けができればという感じ。

⇒そうですね、とにかくしっかりと色を出していくという意味でも、新体制っていうのは当然4月から始まってまいりますので、まずはその以降の中で、もちろん水面下で今からやっていかなきゃいけないことはありますけれども、できるだけ早急に自分が掲げていた公約を出せるように努力はしてまいりたいと思います（市長）

産経) 特に今後、当然お金の要る問題、税の執行、施策とかになったら、議会という部分が問題になってくるんで、市議会、選挙中批判をされましたし、終わってからノーサイドみたいな形で行かれるということなんですけれど、少数与党になるということについて、どのような形で施策を進めていく、議会対策っていうと失礼ですけど考えていらっしゃいますか。

⇒議会対策というよりもそもそも論として私自身が市議会議員でしたから、与党と野党というものの自体を生み出すことが二代表制の主旨として間違っているなどと思って市会議員をやっておりました。ですから極端に言えば、当然それぞれの会派がそれぞれの政党も抱えながら、それぞれの住民の意見を反映されているわけですから、全ての会派、すべての議員さん、無会派も含めて、連携じゃないな、しっかりと是々非々の姿勢なんですけど、こちらとしては当然、これが舞鶴にとってこれから必要ですというような予算であったり条例を提案させていただきますので、そこは建設的な議論を見せる機会というふうに思っていますね（市長）

京・■) 6月以降には補正予算に肉付けをされるということなんですけど、掲げている公約のうちやっぱり次世代投資っていうのが力を入れていきたいこと、6月以降は。

⇒そうですね。学校給食についても小・中学校とそれぞれ予算配分も違いますし、また1つ掲げているいわゆる学習塾などの一部補助についても、これも制度設計をまずしっかりとしていかなければなりませんから、どういった制限を付けるのかであったり。ただこういったところについては何度も繰り返しますけれども、お約束をして当選をさせていただいておりますので、まずは一つずつでも公約を市民の皆さまにお示ししていただけるように努めてまいりたいと思います（市長）

【裏面あり】

産経) 給食費の無償化を掲げていらっしゃるんですが、その中で費用として3億円以上かかるという。

⇒そうですね、小・中合わせて(市長)

産経) その辺のところを段階的に着手するお考えでしょうか。どのような具体的なお考えがありますか。

⇒それも今、明言は避けたいと思うんですけども、まずは同時でというよりもいずれか、小学校なら小学校、中学校なら中学校でも段階的に進めていくことになるんだろうというふうに思っています。繰り返しているとおりに、その3億円という財源をどのように確保していくかということについても、これからしっかりと行財政改革を行う中で検討してまいりたいと思っておりますので。一括で出すか、段階的に出すか、状況が厳しければ段階的にでもまずは自分自身の公約を前に出していきたいというふうに思います

(市長)

産経) それは4年間かけてということですか。

⇒4年間かけてですけど、できるだけ早く。できたら今年あげたいなという思いはありますけれども(市長)

京・■) 給料の30パーセントカット、退職金の不支給というまあ行財政改革なんですけど、これに関する思いをもう一度お聞かせ願えますでしょうか。

⇒今、先ほど来の質問にも重複するように、やっぱり行財政改革をする上で、まずはリーダー、市長そのものの報酬も含めてそれは受け取り過ぎなのではないかというのを思っております。それは少しでも自分自身が削っていくことで少しでも子どもであったり、福祉であったりに財源を回していきたい、そういった思いであります(市長)

京・■) 「ITを活用した便利で心豊かな田舎暮らし」多々見さんの前の目標だったと思ったんですけど、今回IT関係を人材の充実みたいな文句はあんまり盛り込まれていないと思うんですが、その辺り、赤れんがパークの方にもIT企業2社ほど入って順調に滑り出しているような状況なんですけど、その辺りどうしていくのか教えていただけますか。

⇒まちのテーマとしてのITを活用したというよりは、そもそも現代社会においてITを活用していくことはマストであろうというふうに思っていますから、今後も引き続きITを各所に於いて活用していくという方向性については変わらず推し進めたいなというふうに思います(市長)

京・■) IT企業が集まっていることに関してはどうですかね。2社ほど入って、KDDIさんとインフォニックさん。

⇒結構なことだと思いますし、ただ入っていただいて、これが舞鶴に入っていたことが舞鶴にどう成果として見えるかというのをしっかりと求めていきたいなとは思いますが(市長)

京・■) 赤れんが整備に関しては5億円ほどあった事業を見送ったということなんですけど、そこに関しては具体的にどういうふうなご判断で見送られたということなんでしょうか。

⇒まずはこれまでの経過ですね、周辺整備のことも含めてこれから始まろうとしているPark-PFIのことも含めて、どういったストーリーでどういった赤れんがの観光拠点としているのかということも私自身も、繰り返しますが今日就任したばかりですから、改めて早急に担当課も含めて全体を再度見直す中で判断をしていきたいというふうに思っております。併せて国3棟については今後の活用についても、やはりこれはしっかりと決めていかなきゃいけないことですから、そこも併せての赤れんが周辺というふうに理解をしていただければと思います(市長)

読売) 無所属でご出馬をされて当選されて、政党としては支部長をお勤めになったかと思うんですけど、今後、維新、政党との距離っていう支部長職をどうされるかを教えてください。

⇒支部長職については手続上は済んでいないんですけど、後任の市議会議員さんにお譲りをさせていただきました。当然、首長ですから党利党略のためにやるわけではありませぬので、そこはしっかりとけじめを付けたというところでございます(市長)

朝日) 党籍はまだお持ちで。

⇒党籍は、詳しいことは私自身も本部に確認しないといけないんですけど、そもそも市

会議員を辞職した時点で一旦党籍はなくなったという説明は受けておりますので、その後、すいません、市長に就任してから現在どうなっているのかっていうのは本部に聞かないと分からないところがありますけれども（市長）

朝日） 北部の支部長の交代は、もう決まってはいるけれどもまだっていう。

⇒具体的な手続き、選挙管理委員会に政治団体の届け出、代表者を代えていかなければなりませんから、そういった事務手続きについてはこれからやっていくということなんですけど、実質上、実務上はもう譲ったということです（市長）

朝日） 2人おられますけどどちらですか。

⇒それは言うてええんかな、廣瀬昇議員です（市長）

京・■） 中央図書館建設の基本的事業費っていうのが盛り込まれていると思うんですけども、この中央図書館に関しては市長のご意見はお伺いできますか。

⇒まず図書館の本来のあり方、本をただ借りに行く施設ではなくて、やはり図書館というのはまちの文化の質を示すものだというふうに思っています。しかしながら今既存の図書館ですね、分館も含めてそういったところが、市民の皆さまのところでも「どうなっていくんだろう」という声もありますので、それらの活用をどうするのか、もしくは撤去してしまうのかそういったところも合わせて、しっかりと表に出していきたいと思っておりますので、原理原則として、中央図書館を建設していくということについては推し進めていきたいという思いです（市長）

京・■） 同じ場所、計画の西舞鶴駅のところ。

⇒はい、そうですね（市長）

京・■） 市長の色が出ているところが子育ての部分だと思うんですが、他に何かありますか。

⇒公約を、選挙の時の話にどうしても戻ってしまうので。やはり大きく打ち出していた部分というのが、まさに自分自身の身を切る上での行財政改革でありますし、次世代への徹底投資ということで子ども教育にお金を使っていきたいということを申し上げておりました。それ以外のことで言うと例えば第1次産業の振興についても強い思い入れがございますし、また歴史文化をしっかりと推し進めていって郷土愛を育むような取り組みもしていきたいと思っておりますし、あと当然スポーツですね、各スポーツ施設の整備であったり、良い生涯スポーツ、子ども達がスポーツに舞鶴で強化ができるような状況を作ってまいりたいと思っております（市長）

京・■） 医療もかなり推しておられると思うんですけども。

⇒医療については当然のことながら、やはり選挙戦を通じましても市民の皆さまから、特に高齢者の皆さまには関心を寄せていただいた部分でありますから、これも先ほど少しお話しをいたしましたけれど、今後市民の皆さまの医療に、舞鶴の医療の対するニーズであったりとか、また公的4病院の皆さまとも連携をする中で、今後の医療のあり方についてはしっかりと考えていきたいと思っております。ただこれは1期4年間でやってしまうんだということではなくて、また大きな方向性、それが再編であったりとかいうことを具体的に考えていくような時期になった時は、もちろん検討委員会のようなものを立ち上げなきゃいけないとは思いますが、現時点ではそれを早急にやっていくという状況ではないということです（市長）

産経） 優先順位的にはまず医療ではないということですか。

⇒優先順位についてはまず次世代への投資、子育て支援、教育ですね、とあわせた行財政改革（市長）

産経） どうでしたか2週間、当選が決まってから登庁するまでっていうのは何かやられたこととか、気分的に転換したこととかございましたか。

⇒そうですね、やはり反響が大きいですし、このようにメディアの皆さまも含めて取材もたくさんいただきましたから、日を追うごとに自覚がさらに強いものになって身が引き締まる思い、これも日々、1日1日重ねるたびにその思いが大きくなっていったという約2週間でしたね（市長）

朝日） 前任者との引き継ぎというのは十分にできましたか。

⇒一定すべて書類もまとまっていますので、それが十分かと言われると、どうかなあというところはありますが、短い期間の中でしたから（市長）

【裏面あり】

京・**■**) 京都府知事さんとか近隣の市町の首長さんなんかにはご挨拶に行かれるんですか。

⇒もう早速スケジュールには入っておりますので明日以降回っていきたくと思います
(市長)

朝日) 近隣の市町でこのとここういう会見をちょいちょいやっているんですが、そこでどうなるのかなっていう話を伺っているのは、多々見さんが5市2町の水平連携の旗振り役をずっとやって来られて、あれはいったい新しい人はどうされるつもりなんかなっていう。

⇒本当に今日の今日ですからね。いろんなお問い合わせを頂戴できるのはありがたいんですけど、いろんな分野で、例えば技術職員の分野においても今単体では厳しいというような状況もあるので、北部連携っていうのは当然続けていくべきものであろうというふうに思っています (市長)

産経) 特に水平連携を進める形で、今までは中心都市圏構想に関してしか国が支援しなかったやつが、水平連携で今回いろいろとお金が下りるようになったというので、その辺のところを各市町でどういうふうな形で進んでいくのか、さらにいろんな図書館の統合、消防署の統合とか進んできたんでその辺に支障がないかというのものもあるんですが、その辺もまた重視して進めていくというお考えでしょうか。

⇒そうですね、はい (市長)

毎日) 今日の部課長会議で市の職員の方にメッセージを出されたんですけども、ひと言で言ったら閉塞感がある、その閉塞感がどこから生まれたのか、これからどう市長としてされようとしているのか端的にお伺いします。

⇒私が感じていた閉塞感というのは、どこを見て仕事をしているのかというところは市議会時代から感じていたところです。つまり言い方を変えれば、首長を見て仕事をするのか、市民の皆さまを見て仕事をするのか、この違いだというふうに思っています。私としましては、まずはそれぞれ職員さんが持っておられる畑であったり力を発揮される分野っていうのが必ずありますから、適材適所の配置のもとで、とにかくどんどん私の公約にも沿ってチャレンジをしていただきたいなというふうに思っています。リーダーとしては大きな方向性を示していくわけですから、それに沿った形で臆することなくやっていっていただきたいと思っています。責任は全て私が取るという思いです (市長)

毎日) 17日の前市長の退任式の時に、肉声で「中途半端な知識で、不十分な知識で医療問題、病院をまとめたら破滅するぞ」とそういうメッセージがでたんですけど、それはどう受け留めますか。

⇒そのメッセージを僕が聞いてませんでしたけれども、全ての分野においても知識があるから成功するわけではありませんし、柔道が強いから名監督になるわけでもありませんし、お医者さんだから病院をしっかりどできるということではないというふうに思っています。そういった意味では、そのコメントについて、発せられたコメントについて私がどうのこうの発言する立場にはないですけれども (市長)

毎日) 先ほど幹事さんの方からもありましたけれども、今日、議長の挨拶の中で「平坦な道ではありませんよ」と「いばらの道」とああいう言葉まで使われたと。そういうことについてはどう受け留めますか。

⇒意図する言葉がどういった意味合いで言われたのか、「新市長だから大変でしょう」という意味でおっしゃっているのか「議会としてもいろいろと考えがありますよ」ということなのかは、それはもう私には何とも言えませんが、ただ議会に対してもとにかく新しいことをしていくということについては、どういったことについても反発や抵抗があるものと理解をしていますから、ただそれは繰り返しますとおりの私の思いで突っ走って行くのではなくて、改めて選挙として公約を評価していただいて当選をさせていただいていますから、しっかりと民意を反映していくということ、どんどん議会に提案をしていきたいというふうに思いますので、議長の挨拶についてもそれにコメントするのはちょっと難しいですね (市長)

毎日) あくまで建設的な二元代表制の下で繰り返しですけども、建設的な議論をしたいということですけども「決して逃げない」という言葉が使われましたね、今日。それは全てに対してのメッセージですね。

【裏面あり】

⇒そうですね (市長)

毎日) そう理解します。非常に大事な言葉だと思います。念のためですけど、中央図書館は基本的に多々見前市長が打ち出したことを継承すると。あそこでやると。東西の現状についてはどうされると、もう1回度確認したい。

⇒今現状は西駅東口に中央図書館を建設すると。今の現状の東西図書館も含めて、分館も含めて、その活用であったりあり方というのが今明確になっていないという現状があると思っています。それについては今後市民の皆さまの意見を聞いたり、ワークショップをしたりしながら考えていかなければならないことだろうというふうに思っていますし、それらを合わせてセットで中央図書館も前に出していくべきなのかなあというふうに現時点での私の考えであります (市長)

毎日) ちょっと戻って申し訳ない。赤れんがについては前回の記者会見の時には入り込み客数に課題があると、ゼロベースで見直すという主旨の表明があったわけですけど、今何が問題であって1回止めて、どういう方向性を市長として、庁内の整理するってことですけども、今の現状認識がどうであって今後どういう方向性を出そう今現時点では出そうとしているのかそこを聞かしてください。

⇒まず周辺整備については防衛省から頂いて進めている部分ですから、そこについてはしっかりと進めていくべきだろうと思っています。観光入込客数が低下しているというような話でいうと、まずは現在のPark-PFIで進んでいく2号棟から5号棟及び文庫山というのは完全に民間ベースで、新しい仕掛けもやりながらこれから打ち出されていくことですから、それについての状況をしっかりと見ていくことと、冒頭に申し上げたとおり国3棟については、これから文化的な価値を高めていくべきなのか、一方で商業施設としての色を出していくべきなのかということについては、大きなまだまだ課題があると思いますし、大きな議論もできておりませんから、その辺りを踏まえてそれぞれの赤れんが全体及びパートパートの役割というのを明確化していきたいなというふうに思っていますね (市長)

毎日) 事業について市民と直接対話する機会を設けるとおっしゃいましたが、それは具体的にいつどういう形でやっていこうとされているのか、そこを聞かせてください。

⇒すいません、まだ具体はしておりません。ただ、例えば自治会もそうですし、子育て支援もそうですし、一方で若い人達からの定期的な意見交換というのも要望いただいておりますので、市としてこういう話し合いを持ちますよという場を設けることと併せて、各いろんな市民団体の皆さまからのご依頼に対して足を運んでいくということも大事だと思っていますので、大きな政策のテーマであったり、政策の意思決定の見える化を図っていきたいというのは選挙公約でもお約束をした部分ですから、ちょっと具体的な話は今出せませんが、今後検討してまいりたいと思っています (市長)

朝日) ものすごく関係ない話を1つ。今朝の着任式の時に花束以外に変わったものを頂かれましたが、あれは何ですか。

⇒あれは吉原の伝統の火祭りで万灯籠という祭りがあります。そのミニチュア版ですね (市長)

朝日) ミニチュアなんですね、あれ。

⇒実は私は吉原の出身ではないんですけども、万灯籠という祭りや地元で共感をしてこれまでからプレーヤーとして毎年参加を実はしているんですね (市長)

朝日) あれ立てる方にまわっていたわけですね。

⇒ほとんど沈んで皆さんから見えないところ、一番根っこといわれる万灯籠を揚げて支える部分におるんですけど。その万灯籠保存会の皆さまがまさかのサプライズで作っていただいていた、何分の一かの。実際は13メートルぐらいありますので、あれが1メートルぐらいでしたから10分の1スケールぐらいなんですかね。本物と同じ組み方ですよ (市長)

朝日) 今年も頑張りますか。

⇒個人的には頑張りたいんですけども、自分だけの体じゃないということなので、さすがにプレーヤーとしてはもう参加することは難しいのかなというふうに思っていますね (市長)

【裏面あり】

毎日) 今の朝日さんの質問に関連して。何が鴨田さん押し出したんだ。つまり3日目からどんどん飛び出して来た。要するに湧くように出てきたと。それまでの均衡が一気に崩れた。いったい何が、万灯籠を作った業者さんが大漁旗を振って鴨田さん押し出したっていうのは分かるんだけど、何が鴨田さん押し出した? やっぱり5千票の差っていうのはすさまじい。

⇒やはり先ほど部課長会でもお話しをしました「閉塞感」というのはまち全体に広がっていたんだろうというふうに認識はしております。それで当然のことながら多くの出馬要請をいただいて、市議会での不祥事もあって決意をしたというのは、これまでから皆さんの前で述べさせていただいているんですけども、まさにその通りで、それだけ舞鶴を今後大きく変えていってほしいんだという素直な市民の皆さまの思いが自分自身の背中を押してくれましたし、3日目以降から一気に大きなうねりができていったことについては、自分なりに改めて分析をした時に、これまでの市長選挙とは状況が違った、多くの方が立候補をされた。その中でこれまで政治に関心がなかった方も含めて、関心があったとしてもあまり声を出せなかった人が、自分自身が立候補したことで声を上げられる材料になったんじゃないかなという事は理解しています。例えば医療問題についても、子育てに困っているということについても、声を上げられる相手がいなかったというところが一つ堰を切ったようにたくさんの声が出たというのを如実に感じた選挙でした(市長)

産経) 受け皿になった?

⇒受け皿、その言葉です。受け皿になれる人が手を挙げてくれた、立候補してくれたというところがうねりに繋がったのかなというふうに感じています(市長)

毎日) 熱狂は必ず冷めるから、やっぱりスタートダッシュですね。それはどういうふうに考えてますか。

⇒繰り返すにはなるので、まずは今日就任させていただきましたし、1つには自分自身の公約である1つ目の「3割カット、退職金は頂きません」というのを早速3月定例会でお出ししていくわけですから、まずはそれが1つのスタートダッシュかもしれないし、繰り返しますように子育て、教育の施策についてもできるだけ早く出していきたい。ただこれも繰り返しますけど財源の確保が必要ですので「6月必ず出しますよ」というのは今ここで明言するのは無責任だと思いますけども、いずれにしても4年間というのは長いようで短いですし、一定スピード感を持って進めていきたい、これに違いは全くありません(市長)

産経) 物価高騰とか生活の圧迫ですね、光熱費。もう直に我々生活してやってきた不満の「何とかしてくれ」という気持ちが、市長選のことはあんまり言いませんが、そういうようなことの思っているのがやっぱり強いということで、今その熱気は冷めるというよりも早く何とかしてほしいという、スピード感は求められるというご自覚はあるわけですね。

⇒そうですね、もちろん(市長)

毎日) 情報を開示することの徹底とおっしゃいましたが、具体的にその辺はどのように考えていますか。

⇒さっきお話しした政策であったりとかの途中段階でもまずは見える化を図っていきたいというふうには思っているんです。それはどういった媒体を通じて、舞鶴市の公式のものを使っての発信も含めて、また自分自身の個人の発信も含めてですし、繰り返しますとおりさまさまざまな市民の皆さまとの意見を交換する場を作っていくって、1つの事業をするにしても「こういう経過でこうなってますよ」と。例えば先ほど申し上げた赤れんがにしても「今現在こうですよ」と「こういう方向になっていくんですよ」というのが、一定市民の人から皆さんからするとちょっと分かりにくいんじゃないかなと思っているので、そういった部分をどんどん発信をしていくことが、結果として市民の皆さまの不信感であったり、理解度の向上にも繋がっていくんじゃないかなと思っています(市長)

京・■) すみません、全く関係ない質問なんですけど。今日の正午ぐらいに漫画家の松本零士さんがお亡くなりになったって報道がありまして、舞鶴市もちょっとだけ縁があると思うんですけど、軍港四都市の日本遺産のシンボルマークをデザインされたと思うんで

【裏面あり】

すけど、一言コメントをいただけますか。

⇒しっかりと説明をさせていただきます。かつて鎮守府が置かれた市として共通の歴史を有して、平成28年度には共同で日本の近代化の躍動が体験できるまちというストーリーが、平成の28年に文化庁の日本遺産の認定を受けて、今後更なる連携を推進していく上でのシンボルとして、呉市の大和ミュージアムの名誉館長を務めておられました松本さんにデザインを依頼して完成をしたものです。それが軍港四市のシンボルマークということなんですけれども、このシンボルマークのデザインを松本零士さんに作成をしていただいたということで、四市は旧軍港市転換法の施行から70年の長きにわたって連携をしていますことから、デザイン自体が四市の港、錨をそれぞれ同じ円で結ばれているということで連携、絆を強めていきたいと思いますという意味合いが込められておりまして、今後についてもこの四市で合同でのイベントやスタンプラリーであったり、パンフレットなどの活用を考えておりまして、今後も四市の連携の象徴として活用していきたいというふうに考えています（市長）

産経) 個人的には松本さんというのは何か子どもの頃好きだったとかいうことはありますか。

⇒あまりにも世代がちょっと違い過ぎますから（市長）

朝日) 世代が2つくらい違いますよね。

⇒「銀河鉄道777」というのは記憶の中ではありますけれども、少し世代が違うかなというふうに思っております（市長）

産経) こういうシンボルマークを作っていただいたということについて何かございますか。

そういう方が亡くなったということについては。

⇒もちろん、自分自身は松本先生の作品に慣れ親しむことは世代的に違いましたけれども、そこコメントしにくいんですけどね。ただ日本において大きな方でしたからお亡くなりになられたことについては心からお悔やみを申し上げたいと思います（市長）

産経) ありがとうございます。

京・■) 子育て環境充実というところで、次世代特例都市とか、そういう中で具体的な施策で自分のアイディアで込められたものってありますか。

⇒今回の当初予算については、冒頭の説明のとおり既存で進めてきていて必ず必要なものを中心で上げておりますので、現状のその中には自分の色というのは特段入っているわけではありません（市長）

公室長	次長	課長等	係長等	係員
文書分類		保存要否 要・否		保存年限 年

会 議 等 報 告 書

部 長	次 長	課長等	係長等	係 員	報 告 者
					市長公室 広報広聴課 氏名 大槻 成雄
件 名		3月 市長定例会見について			
日 時		令和5年3月22日(水) 17:00 ~ 17:45			
会議等場所		本庁本館 3階 301会議室			
出席者		鴨田市長、堤副市長 竹本消防長、川端市長公室長、有吉政策推進部長、桑垣総務部長、 小路消防次長、大谷人事室長、人事課：濱井課長、 末永人事・人材育成係長、柳橋給与・福利厚生係長			

3月市長定例会見を22日(水)17時00分から開催しました。
内容について下記のとおり報告します。

記

【出席報道関係者】

産経新聞社()、京都新聞社()、毎日新聞()、
朝日新聞社()、読売新聞社()

1. 令和5年度の組織改編および人事異動について

令和5年度の組織改編と人事異動について、ご説明いたします。

市長就任から、限られた時間ではありましたが、機能的で市民に分かりやすい組織となるよう、見直しに着手しております。「未来に希望がもてる活力あるまち・舞鶴の再生」を目指し、希望を次世代に確実に継承していくために、「次世代への積極的な投資」、「安全で安心できる社会の実現」、「魅力的なまちづくりの構築」、「身を切る行財政改革の遂行」の4項目を基本施策の柱として位置づけ、その実現に向け、市政を推進するために必要な組織改編と人事異動を行います。

まず、組織改編の概要についてご説明いたします。別添資料は1ページから5ページをご覧ください。

まず、「改革推進課」の設置であります。今ある業務をゼロベースで見直し、既存の事業においてより効率的な手法はないか、民間の力に委ねたほうがより効果的な施設はないか、洗いざらい検証するとともに、市民との対話集会等を通して真に必要な施策を把握するため、市長公室に「改革推進課」を設置するものであります。

次に「デジタル推進室」の設置であります。今後の行財政改革の遂行を図る上で重要な「行政デジタル化」を推進し、AI-OCR、RPAの利用拡大など、効果的で効率的な行政デジタル化の更なる推進を図り、業務の効率化等によって得られた人材や時間を多様化する住民ニーズに的確に対応した満足度の高い行政サービスへとつなげるため、総務部に「デジタル推進室」を設置いたします。

次に「健康総合対策室」の設置であります。添付資料は3ページになります。地域医療の確保や健康診査、ワクチン接種などに関しては、健康づくり課と地域医療課は連携を図りながら、公的4病院や医師会と密接に協議・調整し取組を進めているところであり、その連携と役割を一層明確にし業務をより円滑に遂行するため、健康・子ども部に「健康総合対策室」を設置いたします。

【裏面あり】

次に、「市史編さん係」の設置であります。添付資料は1ページにお戻りください。平成6年11月の舞鶴市史刊行から四半世紀以上経過し、高速道路ネットワークの完成や京都舞鶴港の機能強化、引揚記念館収蔵資料のユネスコ世界記憶遺産登録や旧軍港4市の日本遺産登録など、この間の舞鶴市の変遷を記録する必要性があるため、市制80周年記念事業のひとつとして市史編さんに着手し、企画政策課に市史編さん係を設置いたします。

次に「図書館再編推進係」の設置であります。添付資料は2ページになります。中央図書館の整備と図書館機能の再編については、「舞鶴市図書館基本計画」に基づき、中央図書館や再編する各分館のあり方や図書館利用の活性化について、市民参加のワークショップを開催し、市民が求める図書館の姿を具現化するため、図書館課に図書館再編推進係を設置いたします。

次に「農林水産振興課」と「農林水産基盤整備課」の統合であります。添付資料は4ページになります。農林水産業の活性化を目指し、ソフト面では、ブランド力の向上や商品の高付加価値化などに積極的に挑戦するとともに、ハード面では、ほ場整備や漁港施設の機能強化、ICTを利用した先端技術の活用などの生産性向上に向けた取り組みを実施することで、舞鶴の環境に応じた次世代型農林水産業の実現に向け、ソフト、ハードの両面から、一体的に取り組むため、2課を統合いたします。

次に、「ふるさと応援寄附金プロジェクトチーム」の設置であります。資料はございません。令和4年度において、昨年度の2倍の約2億9千万円の寄附をいただいた「ふるさと納税」については、観光まちづくり室長を総括責任者とし、農林水産振興課、移住・定住促進課、広報広聴課など部を超え一丸となって、利用者の多様なニーズに応じた返礼品の開発や、さらなる利用拡大に取り組むため「ふるさと応援寄附金プロジェクトチーム」を設置いたします。

次に、人事異動の概要について、ご説明いたします。職員一人ひとりの能力開発を最大限発揮できるよう、適材適所の職員配置を行うとともに、組織の活性化と若手職員や女性職員の活躍推進に積極的に取り組み、「職員の意識改革」と「組織の活性化」を目指す人事異動を行うものであります。人事異動の規模につきましては、正職員752名のうち、230名の異動となります。令和4年度の退職者は48名、令和5年度の採用者は33名、その結果、正職員数は、752名から、737名へ、15名の減となります。補職者の人事異動につきましては、別添資料6ページから13ページに、記載しております。

次に若手職員の活躍推進についてであります。市役所の市民サービスの向上に向け、様々な課題に対応しながら、将来を見据えた施策や事業を展開していくためには、若手職員のさらなる活躍が重要であると考えております。組織のマネジメントを担う管理監督職に若手職員を積極的に登用するなど、若手職員の活躍推進に取り組んでおります。

管理監督職への若手職員の登用について、ご説明いたします。添付資料6ページの補職者の異動の上から6番目の産業振興部長の小島については、本市ではこれまでの最年少、50歳で部長職を担います。また7ページの中ほど、市長公室秘書課長の言上についても同じく最年少、40歳で管理職に昇任します。また、政策推進室企画政策課主幹兼京都府北部地域連携推進担当課長の亀井や、8ページ目、下から4番目の産業創造室みなと振興・国際交流課長の中山についても、42歳で管理職に登用するなど、若手職員の活躍推進に積極的に取り組んでいるところであります。

次に、女性職員の活躍推進についてであります。市役所は、子育て、教育、福祉、医療、防災など、市民生活に密着した様々な行政を担っており、その政策や施策を決定する過程に多くの女性が参画することは、多様な価値観での政策立案に繋がるという重要な意義を有しており、女性職員の活躍推進に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。女性職員の任用につきましては、別添資料15、16ページをご覧ください。

先ほど、令和5年度の正職員数について737名と申し上げましたが、そのうち、女性が多い病院職員56名と、男性が多い消防職員124名を除くと、行政職の職員は557名となります。行政職557名のうち女性職員は237名、その割合は42.5%となります。係長級に占める女性職員の割合は、122名のうち42名で、34.4%、管理職に占める女性職員の割合は、109名の

【裏面あり】

うち22名で、20.2%となり、その結果、係長職と管理職に占める女性の割合は、27.7%とこれまでの最高となっております。添付資料の6ページにお戻りください。次長級においては、これまで、文化スポーツ室長、観光まちづくり室長などのポストに、女性職員を配置しておりますが、令和5年度においては、行財政改革に取り組む、最も重要なポストである市長公室次長に、現在、財政課長の芦田を登用いたします。また、新たに室を設置する健康総合対策室長、そして会計管理者と5つのポストを女性職員が担うこととなります。課長級においては、現在の東京事務所長に加え、創業支援や商工振興に取り組む商工振興担当課長や、質の高い教育環境づくりを推進する教育総務課長に女性職員を配置しております。また、係長職においても、移住・定住促進係長に37歳の女性係長を、図書館再編推進係長や文化振興係長、農業振興係長や水産振興係長などのポストにも女性職員を配置しております。今後とも、「女性が活躍できる職場環境の創出」に努めてまいりたいと考えております。

次に、職員派遣について、ご説明いたします。別添資料は、17ページをご覧ください。本市では、国や他の自治体の職員と一緒に仕事をする中で、切磋琢磨し、舞鶴に居ては経験できない第一線の情報収集を行うとともに、先進的な行政手法を会得することにより、職員の能力開発を図り、市役所の組織力を高め市民サービスの向上につなげることを目的に、中央省庁等へ職員を派遣しているところであります。今年度の派遣職員については、17ページの記載のとおりとなっております。

その他の「資料」については、人事課長から説明させます。

(資料説明：濱井課長)

産経) 今回は病院職員については異動はないってことですか。今まで病院のあれが入っていたと思うんですが。

⇒捕職者につきまして、6ページ部長級の一番下、市民病院管理部長を入れております。捕職者、部長級11名の11人目です(濱井課長)

産経) 了解しました。あと詳しいこと、これは市長にお伺いした方がいいと思うんですけども。改革推進課というのを今回立ち上げるということで、ゼロベースでより効果的なものはないかってことなんですけれども、これに対して全てを見直すということなんですけど、事業については何か集中してまずこれから手を付けて見直していくっていうものはあるんでしょうか。

⇒特段これというものではなくて、全ての部に対してここはこの係が課長が中心となってやっていくと(市長)

産経) 各課の部課長が。あと図書館の再編なんですけど、図書館新しくもう建設計画が出てるんですけど、それ自体を見直すものでなく図書館のあり方という部分でしょうか。それとも再編自体を見直すというような作業が入るんでしょうか。

⇒図書館のあり方であったり、利用のどういったふうな図書館を求められているのかということ突き詰めていきたいなというふうに思っていて、今お尋ねの主旨で、要するに今計画をしている建設については進めていきたいということです(市長)

朝日) 改革推進課についてもう少しお伺いします。課長と次長は人事の表から見えるんですけど、これ何人ぐらいの規模でスタートすることになるんですか。

⇒細かいところは、人数については人事からお願いします(市長)

⇒改革推進課については、市長公室の次長が兼ねます。係員が係長が1名という形になります(大谷室長)

朝日) 2人ですね。

⇒2人です(大谷室長)

朝日) 部長級筆頭の危機管理室長の前職が舞鶴地方総監部の防衛部長とあるんですけど、これは退職しておいでになるんですか。出向してこられないんですか。

⇒危機管理室長については、退職されて4月からこちら方にみえるという形になります(大谷室長)

朝日) 過去のこういう例ございますか。

⇒今の危機管理室長が同じように防衛省の方から退職されてきておられるという形になります(大谷室長)

【裏面あり】

朝日) 230人という規模は例年並みですか、少し多くないですか。

⇒だいたい例年どおりです(大谷室長)

朝日) これは市長にお伺いしますが、市長選の時の公約と言うほどははっきりとおっしゃいませんでしたけど、管理職以上で再任用は入れないというふうには何度もおっしゃっているんですけど、実現できてますでしょうか。

⇒実現できています、はい。(市長)

産経) 公民館長。

⇒管理職ですからね。(市長)

朝日) この場合の管理職は?

⇒主幹以上です(市長)

朝日) 次長以上?

⇒主幹以上です。主幹以上を管理職として現職の職員で構成しているということです(市長)

京・■) 健康総合対策室のねらいをもう少し、市長お話しただけならと思うんですけど。

⇒健康と子どもそれぞれ私の公約にとっても非常に大事な分野でして、ざっくりという医療を中心とした室と子どもに特化した室、これを2つに分けたいという思いの中から、新たにまた医療をしっかりと力を入れていきたいという意味で新しく対策室を作らせていただきました(市長)

読売) 引揚記念館内に世界記憶遺産推進係を新たに設置されますけれども、そちらのねらいも教えてください。

⇒引揚記念館については、また4年後かな、ユネスコ記憶遺産に登録されて10周年を迎えようとしている中で、新たにしっかりと係を設けてこれまでの引き揚げの語り部さんについても、学生語り部さんの活用についても含めてですね、より引揚記念館をPRしていきたいとそういった思いの中から新たに係を作らせていただきました(市長)

産経) 山下さんですね。

京・■) 今回退職者数ってかなり多いです?

⇒退職者数は例年に比べて多いです、もうちょっと詳しくご説明させていただくならば(市長)

⇒昨年に比べますと10名多いということになっております。昨年は38名でした。定年退職の数にもよりますので、今年は多かったというところです。定年退職も例年に比べると多かったです(濱井課長)

産経) 例年に比べて多いってことなんですけど、これで新入の人が33人で15人マイナスっていうと結構大きくない組織にとっては厳しい状況ではないでしょうか。その辺への対処っていうのは。

⇒なかなか人材確保が非常に難しく、これ舞鶴だけではない話かもしれないんですけど、その中で追加の職員募集っていうのを今年初めてしたんです。2月に技術職員を、3月には事務職員の追加募集をしまして、年齢要件を引き上げたりいろんな工夫をする中で、無事に追加で何人か採用の今日処が立っておりまして、これでも減少がくい止められたのかなと思っています(濱井課長)

産経) 追加って何人ぐらい採用される予定なんですか。

⇒技術職で3人、事務職で4人が採用できる見込みになっております(濱井課長)

産経) 7人足したら8人減ぐらいで。

⇒15の中には、20人を超える減が見込まれる中でそういう対策を講じまして(濱井課長)

産経) 15人になったということですね。

⇒そうです(濱井課長)

産経) 分かりました。

朝日) 採用者33名に中に入るとるわけですね

⇒はいそうです(濱井課長)

⇒追加は新しい取り組みでしたけど、たくさんありましたしね(市長)

京・■) 市史の方なんですけど、これ刊行したのがいつで、いつからの分を新たに作ろうとされておられるんですか。

【裏面あり】

⇒もう1回お願いします（市長）

京・■）市史を刊行されたのがいつで、いつからの分を今から着手しようと、事務方の方からでも。

⇒分かりました、大谷の方から（市長）

⇒現在の市史編纂が刊行されたのが、平成の6年11月、再度確認させていただきますけれども、前回の市史編纂室が閉じたのが平成7年3月31日で一旦、市史編纂の係というのはなくなっています。今回新たに市史編纂をさせていただくのは、それ以降の分だけというのではなくて、以前刊行させていただいた中身も再度検証させていただいての市史編纂という形になります（大谷室長）

⇒後で詳しい数字を説明させていただきますけれども、舞鶴市制、来年が80周年になるんですけども、市制30周年のときの記念事業として前回着手をしまして、正式な数字は申し上げますが、23年間かかって7冊に分かれています。今回市制80周年ということですので、それぐらいの長期スパンにわたってしっかり舞鶴市の歴史を（川端公室長）

朝日）100周年ぐらいで完成ということですね。

京・■）そういうことですか。

⇒こういうのは20年間ぐらいスパンで。だから1年間でやるとかいうな。前回は30年（川端公室長）

朝日）その時鴨田さんが60いくつですね。

⇒その当時の資料でいうと市制30周年の記念事業で取り組みを始めて、50周年の時にはまとめようというような意気込みが書いてあったんですが、実は50周年の時に間に合わなくて、23年間かかったという記録になっていますね。数字はこの後、広報広聴課を通じて出させていただきます（川端公室長）

公室長	次長	課長等	係長等	係員	
文書分類	保存要否		要・否	保存年限	年

会 議 等 報 告 書

部 長	次 長	課長等	係長等	係 員	報 告 者
					市長公室 広報広聴課 氏名 大槻 成雄
件 名		4月 市長定例会見について			
日 時		令和5年4月24日（月）11：00 ～ 11：50			
会議等場所		本庁本館 3階 301会議室			
出席者		鴨田市長、福田参事 桑垣市長公室長、有吉政策推進部長、杉本総務部長 小島産業振興部長、文化スポーツ室：三方室長 文化振興課：後係長、佐藤主査 みなと振興・国際交流課：中山課長、坪内係長 移住・定住促進課：砂田課長、坂本係長			

4月市長定例会見を24日（月）11時00分から開催しました。
内容について下記のとおり報告します。

記

【出席報道関係者】

産経新聞社（ ）、京都新聞社（ ）、
朝日新聞社（ ）、読売新聞社（ ）

【欠席報道関係者】

NHK（ ）、毎日新聞（ ）

1. NHK のど自慢の開催について（文化振興課）

今般、市制施行80周年記念事業として開催いたします「NHKのど自慢」について、ご説明いたします。

「のど自慢」は、“あなたの街の、みんなのステージ”をテーマに、地域のみなさんの歌声を全国に届け親しまれている、NHKの全国放送公開番組です。本市での開催日は、令和5年7月9日、日曜日、開演は午前11時40分です。舞鶴市総合文化会館大ホールにおいて、NHK京都放送局との共催により開催いたします。また、出演者を選出するための予選会を、7月8日、土曜日、正午から開催します。予選通過者の結果発表は、予選当日午後5時30分頃の予定です。

舞鶴市では、平成25年に市制施行70周年記念として開催して以来、10年ぶりの開催となります。なお、令和2年、令和3年にも開催予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

出演は、予選を通過された18組程のみなさまと、ゲストは前川清さん、相川七瀬さん、司会は今年4月の番組リニューアル後、番組史上初の女性司会者となられた廣瀬智美アナウンサーです。本選は、7月9日、日曜日、午後0時15分から午後1時まで、NHK総合、ラジオ第1、国際放送、FMにて生放送される予定です。

のど自慢の開催にあたり、出場者と観覧者を募集いたします。

まず、出場者につきましては、中学生以上が対象となります。応募いただいた方の中から、200組程度を上限に選出され、7月8日の予選会に出場いただきます。応募は、5月25日、木曜日、必着で、必要事項を記載し、WEBまたは郵便往復はがきでの申込となります。出場希望の応募先はNHK京都放送局です。

次に、観覧者の募集につきましては、6月2日、金曜日必着で、郵便往復はがきに必要事項を記入の上、舞鶴市総合文化会館にご応募ください。観覧希望については、郵便往復

【裏面あり】

はがきのみの受付となります。出場及び観覧の当選、落選のご案内は、どちらも6月20日頃に、予選会のご案内、入場整理券、又は落選通知をはがきで発送いたします。

詳細につきましては、お手元にお配りしておりますチラシをご覧ください。市のホームページにも掲載しております。是非多くの皆様にご参加いただき、市制施行80周年を記念する事業を、市民の皆様とともに盛り上げてまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

京・■) これって舞鶴市さんが要請して実現したということなんですかね。

⇒そうですね、詳細は文化振興課から説明をさせていただきます(市長)

⇒文化振興課の三方でございます。NHKさんの方から年間の公開番組等の開催の要望調査というのがございまして、70周年の時にも実施をしておりますし、ぜひとも80周年にも実施をさせていただきたいということで要望したものでございます(三方室長)

京・■) 舞鶴以外も参加できるんですかね、近隣市町村の人たちも大丈夫ですか？

⇒はい、大丈夫です(三方室長)

2. 舞鶴市・ポーツマス市姉妹都市提携25周年記念事業について

〈みなと振興・国際交流課〉

「舞鶴市・ポーツマス市姉妹都市提携25周年記念事業」についてご説明いたします。

舞鶴市と英国・ポーツマス市は、1998年に姉妹都市を提携以来、文化や青少年交流を中心に、行政間のみならず、市民間においても友好関係を築いてきたところであります。そうした中、今年で姉妹都市提携25周年を迎えるにあたり、記念事業として、今般、ポーツマス市から、トム・コールズ名誉市長をお招きするとともに、市民の皆様を対象に、名誉市長による講演会を開催いたします。

ポーツマス市は、英国海軍最古の基地として、イギリスの歴史とともに歩んできた町であります。一方で、舞鶴市も同様に、軍港として発展してきた歴史があり、舞鶴鎮守府初代司令長官の東郷平八郎は、若き日にイギリスに留学し、海軍技術を学んだという縁がございます。この縁から、1993年、赤れんが博物館の開館時にポーツマス市から18世紀の海軍倉庫れんがが寄贈されたことをきっかけとして交流が始まり、その後、小中学生の手紙の交換やボーイスカウトなどの市民同士の交流が進み、1998年5月、舞鶴市とポーツマス市の両市長・両市議会議長が相互に訪問し、姉妹都市提携が実現いたしました。その後も、ポーツマス市ゆかりの展示会などの文化交流や提携の翌年から続く中高生の英語研修をはじめとする青少年交流を中心に友好交流を重ね、今年で25周年の節目を迎えます。

舞鶴市・ポーツマス市姉妹都市提携25周年記念事業といたしましては、5月25日～29日の日程でトム・コールズポーツマス市名誉市長を舞鶴市にお招きし、27日午前は総合文化会館で開催する舞鶴市市制施行80周年記念式典に、姉妹・友好都市を代表してご出席いただきます。同日午後は、赤れんが4号棟におきまして、一般の方を対象に、名誉市長がポーツマス市の魅力などについて講演いただく予定としております。その他、市内で開催される各種行事にもご参加いただく予定としております。

ポーツマス市名誉市長による講演会につきましては、5月27日、14時～16時に赤れんが4号棟にて開催いたします。会場では、名誉市長の講演とアフタヌーンティーが楽しめますので、多くの方にお越しいただきたいと思いますと考えております。申し込みは、4月28日から市ホームページで受付を開始するとともに、広報まいづる5月号でもお知らせいたします。詳細につきましては、後日、広報資料でお知らせいたします。

舞鶴市といたしましては、ポーツマス市との姉妹都市提携25周年を契機として、新型コロナウイルス感染症により休止していた青少年交流をはじめとする人的交流を再開し、国際人材の育成を促進するとともに、市民交流の更なる拡大に繋がるよう努めてまいります。

産経) 講演会なんですけど、詳細は後日ということなんですけど、現段階では4月28日から受付開始ということで、我々としては知らせるような形を取ってくると思うんですけど、何人ぐらいを予定されていますか。

【裏面あり】

⇒定員につきましては先着にて80名の受け付けで予定をしております(中山課長)
産経)それをホームページで80人という。

⇒そうですね、ホームページで80人。あと広報まいづるの5月号にも掲載の募集の記事を載せさせていただいて募集をかけたいと思っております(中山課長)

産経)4月28日の何時から受付開始ですか、時間としては。

⇒始業のタイミングの8時30分からの受け付けを考えております(中山課長)

産経)受付するとしたら8時30分から。

⇒8時30分からホームページの方で公開ということで(中山課長)

産経)条件とかは特にないんですかね、子どもはあかんとかいうような。

⇒特にその条件を設けることは考えていません(中山課長)

産経)1人1申し込みということですか。複数の申し込みになったりとかそういうことはないですか。

⇒その詳細につきましても、きちんと丁寧に説明をしたうえで募集をかけたいと思います(中山課長)

産経)どのような予定をされていますか。詳細丁寧に説明する内容については。教えてくださいいただけますか。

⇒今おっしゃられたような1人複数での申し込みはというような条件のこととか、そういうことはきちんと分かるように説明いたします(中山課長)

産経)掲示するわけですね、ホームページで。はい、了解。

朝・■)名誉市長というのはちょっとあんまり聞き慣れない肩書なんですけど、これはどういう人なんでしょうか。

⇒小島の方からご説明いたします。ポーツマスっていうのは、選挙で申し上げますと議員を選ぶ直接選挙がございます。いわゆる日本的な市長の職をするのは、その議員の中の代表、最大与党の幹事長的な人が市長職をします。一方で名誉市長というのは、議員の中で党は関係なく選ばれた人が、これは1年ごとに代わっていきますけども、いわゆる対外的な市長、市の代表という意味での市長としてその市長職をやります。「名誉」というふうについているのは、イギリスの中でも限られた都市にしか与えられなくて、ポーツマスの場合は海軍の歴史上重要な役割を果たしたということで、イギリスの国王から「ロードメイヤー」、「ロード」という文字が付くんですけども、そうした称号を与えられているということでございます(小島部長)

産経)いわゆる政治に携わるのではなく、外交とかをする何とか大使みたいな形を名誉市長という。

⇒おっしゃるとおりです(小島部長)

産経)私の記憶が定かなのか、衣装がなんか変な、着はったような。

⇒黒いガウンを着たり、三角形の帽子を被ったり、チェーンですね、独特な格好をされていると思います(小島部長)

京・■)議員さんてことでいいんですね。

⇒はい、議員の中の1人です(小島部長)

⇒議長みたいな人やね(市長)

京・■)市議会議員?

⇒はい(小島部長)

京・■)交流は最後はどこが最後ですか、平成何年が。行く方と迎える方と。

⇒平成30年度、平成31年の3月に行った舞鶴市中高生によるポーツマス市を訪問した英語研修、これがコロナ前最後の(小島部長)

産経)向こうからも来て交互にやってなかったですかね。

⇒交互じゃありません。たまに来て交流する時はありますけども、向こうからはコンスタントにはなっていません(小島部長)

産経)舞鶴からは31年まではコンスタントに行かれていた。

⇒はい(小島部長)

京・■)平成31年ですね、分かりました。

3. 令和4年度の移住者実績について〈移住・定住促進課〉

本市では、移住・定住の促進に取り組んでいるところでありますが、令和4年度は、過去最多でありました令和2年度の移住者数を上回り、16組42名の移住者実績となりました。移住者数のカウントを始めた平成23年度から令和4年度までの累計は110組254名となっており、多くの方に移住いただいているところです。令和4年度については、大浦・加佐両地区の地域活性化センターを設置し、地域と常時密接な関係を築くことで、移住希望者と地域の共通の窓口となり、円滑な移住を担ってきたところであり、移住者数の増加に繋がっているところです。

また、令和3年度からWEB上の空き家情報バンク登録物件の案内について、VRによりバーチャル見学できる三次元のシステムを府内で初めて導入し、令和4年度にはすべての農漁村物件のVR化に取り組み、事前に物件の選定が容易となり、移住希望者にとって効率的なツールとなっているところです。

さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で地方移住への関心が高まっていることや、テレワークなどの新しい働き方が普及したことも移住者の増加に繋がっていると考えられます。特に子育て世帯においては、自然環境が豊かな地方で暮らしたいと望む方が増加していることから、令和4年度の子育て世帯の移住者は全体の約44%となっており、例年と比較しても高い割合となっております。また、国の支援の対象となっております東京23区内からのテレワーク移住についても、2組の移住支援金該当者があり、令和4年度の特徴的な移住となっております。

3月22日には、京都府の「移住促進特別区域」に加佐地区・大浦地区・池内地区に続き、高野地区が指定され、空き家改修補助などの支援が可能となりましたので、今後一層地域と連携して移住・定住の促進に取り組んでまいりたいと考えております。

産経) 昨年度まで、バーチャル空き家、それから高専の移住促進住宅とか様々な継続的にやられてきたようなんですが、今期また市長が新たに代わって、移住・定住には力を入れる考えは継続的におありだと思いますけれど、どのようなことを進めていきたいと、何か構想はございますか。

⇒やはり先ほど説明もさせていただいたとおり、自然に触れながら移住をしていきたいという方を特に重点的に誘致をしたいなというふうに思っております。やっぱり懸念されることは、農村漁村部というのは、どんな人が来るか分からないというところの不安でありますので、そこについては従来の仕組みの中で、突然移住者が入って来られるんじゃないかと、しっかりと市が間に入ってですね、自治会と移住者をまず引き合わせるような取り組みを継続していますので、その点についてはしっかりと継続をしながら、後は課題は空き家ですね。空き家が特に、移住者が一定定着をしている、例えば加佐地域なんかですと住民理解が促進しているんですけど、やっぱり池内地域であるとか、まだこれから登録していく高野地域については、これまでから空き家バンクの実績が少ないけれども空き家は一定あるというふうに認識をしておりますので。特に池内・高野については、比較的、加佐・大浦に比べてもまち中に近いという特徴もありますから、この点についての住民理解をしっかりと促進していきたいなあと思っております。その上でも職員もしっかりと現場に入ってですね、地域の皆さまと共にまちづくりを作りたい、そういうふうに思っております(市長)

産経) 活用していくということですね。

⇒活用していきます、はい(市長)

京・■) 文書にあります子育て世帯は何歳以上とか定義はありますか。

⇒特に定義はございませんけども、高校生以下の認識でおります。ただ、今回高校生の方はおられません。中学生以下の方(砂田課長)

京・■) 中学生以下の子どもさんがおられる家庭ということ。

⇒今回移住をされています(砂田課長)

京・■) 44パーセント？

⇒はい(砂田課長)

産経) 44パーセントいうたら、掛けたら何世帯になるんや。

【裏面あり】

⇒1 ページ目にご書いてございますけど、子育て世帯は7組です(砂田課長)

産経) すみません、失礼しました。

京・■) 移住支援金をいただいている該当者に2組ってあるんですけど、これ何人なんですか。

⇒2組で5名です(砂田課長)

京・■) お仕事としたらどんな仕事の方々が来られてるんですか。

⇒いわゆる IT 関連になります(砂田課長)

京・■) 2人とも?

⇒はい(砂田課長)

⇒■さんが間におってまとめていただいて、■さんの協力企業なんですけども、非常に高い評判をいただいております、特に■というのには IT 技術が非常に高いということで、そういうこともあって。こちらについても先ほど産経さんからもありましたけども、都会に行かなくても先進的な IT の仕事ができるという部分もしっかりとこれから押し出していききたいというふうに思っています(市長)

朝・■) テレワーク移住以外の方の収入とか移住したあとの仕事っていうのはどういうところがありますか。

⇒いろいろ多様な方がおられますけども、例えば■から、■の方から移住された方については舞鶴のジョブ・サポートまいづるをご案内しまして、■関連の方に新たに職に就かれたというようなことがございます。後は、テレワーク移住について先ほど2件ほどございましたけど、それ以外でも自宅で仕事ができるというような方もおられますし、セカンドライフということで農業を多少して過ごされるというような、いろいろございます(砂田課長)

産経) 加佐、大浦という地域、それで今回高野ですね、いわゆる人が減っている地域なんですけれど、同時に都市部に空いた空洞化しているところへの対処というのが何か特別進めていくような計画はありますか。

⇒まちなかについては、まちなかの駅周辺の都市部に空き家バンクをはっております。これは都市計画課の方で、まちなかの空洞化を防ぐためにということとコンパクトシティを目指しているということで、同じような補助を打っております(砂田課長)

産経) やっぱり移住して来た人で農業・漁業、地元の産業に就く人っていうのは、割り合い的にはどれくらいあるんでしょうか。どんな感じなんですか。例えばこの前、■を栽培したり、そういうことをされている方があったんですけど。

⇒先ほど申し上げました、まさしく■の仕事に就かれたっていう方は、その片手間に■の方をやらせて、■が主ではないんです(砂田課長)

産経) 農業や漁業をやられている方はどれくらいの割合ですか。

⇒農業・漁業を主体的にやられるっていう方は今は少なくなっています。専業というのではないです。いわゆる片手間にやられるっていう(砂田課長)

⇒■の方についてもマンパワーが強いので、以前から移住されている方々を巻き込んでされているので、今後地域の振興という意味で非常に期待をしております。先ほど移住の実績の人数を報告はしているものの、決して来た人が何人やから移住するじゃなくて、やっぱり目的を持って来ていただける人は、周りを巻き込む力があるなあとことは実感しているところです。それからおっしゃったように、まちなかですね。まちなかについては都市計画の方で立地適正化計画というものを策定して5年が経過したんですけども、これから適正化計画の今後の5年間の見直しをより実効的なものにしていこうというふうに検討しているところです。その中で、また具体的ではありませんけれども、まちなかの住宅についても空き家が非常に増えてきているので、より効果的に補助として使っていただきやすい補助の検討を始めたところであるので、また詳細が分かれば議会を含めてお示しをしていきたいというふうに思っています(市長)

朝・■) 移住者っていうのはこの平成23年以降統計とられていて、そのあとずっと追いかけていらっしゃるんですかね。つまり入って来られた方が転出されたってとこまで追いかけていらっしゃる?

【裏面あり】

⇒今私の方で把握をしていますのは、5組ほどは転出をされた、転出あるいは死亡された方もおられますので（砂田課長）

⇒比較的定住率が高いというふうには行政としては認識はしております（市長）

京・■■）この中で海外から1組って書いてあるんですが、これどこから。

⇒ご主人が■■、奥さまが■■で■■のお子さまがおられて、3人で移住をされました。（砂田課長）

京・■■）■■の意味が分かりません。

⇒■■はそもそも■■の■■やったんです（砂田課長）

京・■■）で、どっから移住されたんですか。

⇒■■。奥さんの両親が住んでいるのは■■です。今回移住されたのは、■■から移住されました（砂田課長）

公室長	次長	課長等	係長等	係員	
文書分類	保存要否		要・否	保存年限	年